

熊本地震に伴う南阿蘇村の復興計画策定委員会は、最終会合で村の計画を認めた。策定委の委員長を務めた北園芳人・熊本大名誉教授(地盤工学)に、計画の特徴や推進に向けた課題を聞いた。

策定委員長 北園芳人氏

年度ごとに 内容見直し 住民の声 反映を

「計画は年度ごとに達成
状況を把握して内容を見直
します。」

「崩落した阿蘇大橋の架

け替えや複数の砂防工事な
ど、国、県が直轄する長期的
な復旧事業も多く、現時点
で生活再建や集落再生の時

期を明記できなかった項目
もある。定期的に状況を判
断し、柔軟に対応すべきだ」

「見直しに際しては、予

定通りに進んでいない事業
やその理由も含めて毎年公
表し、住民の声を計画に反
映してほしい」

「復興の推進に必要な村
の取り組みは。」

「村づくり協議会を通し

て地区ごとの状況を把握
し、計画から取り残される

人をなくしたい。行政と村
民をつなぐ集落支援員の活
用も求められる」

「震災遺構の保存や復興
ミュージアムの検討も盛り
込みました。」

「各地にある災害の記録
・学習施設は、災害発生か
ら時間がたって訪れる人が
激減した施設も多い。被災
だけでなく、世界ジオパー
クの阿蘇ならではの自然や
歴史といった背景とともに
に、熊本地震を学べるよう
な場所があれば、将来の観
光活性化にもつながるので
はないか」

